

市民ボランティア団体へのアンケート結果について

図書館内外において、読み聞かせ等で活動されている市民ボランティア団体の方々に、令和5年度末までの活動状況や次期計画策定に向けた意見等について、アンケートとして回答協力いただいた。

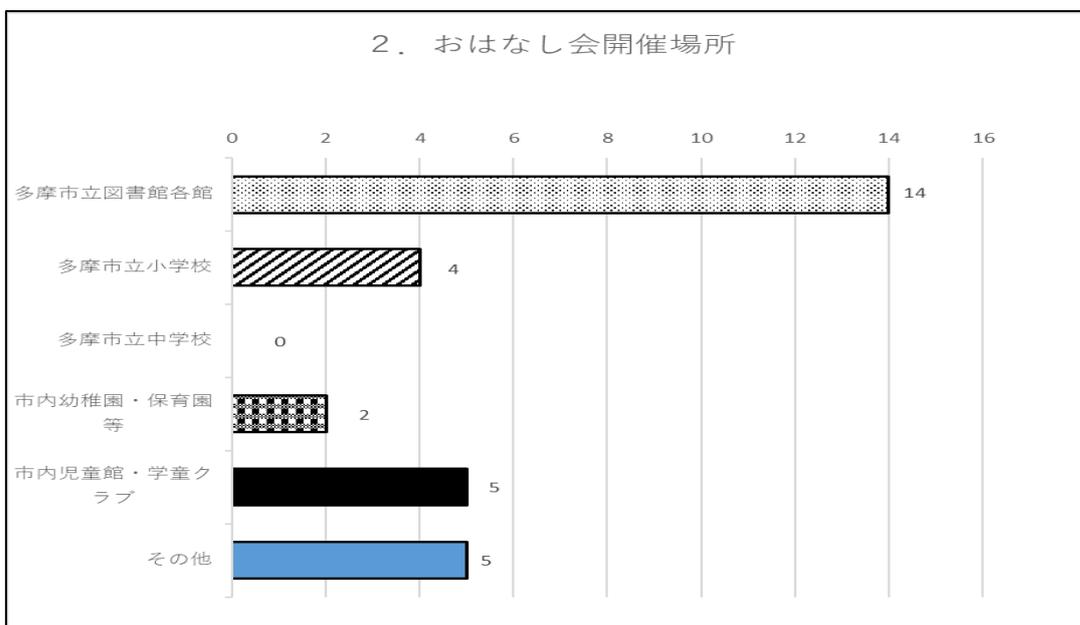
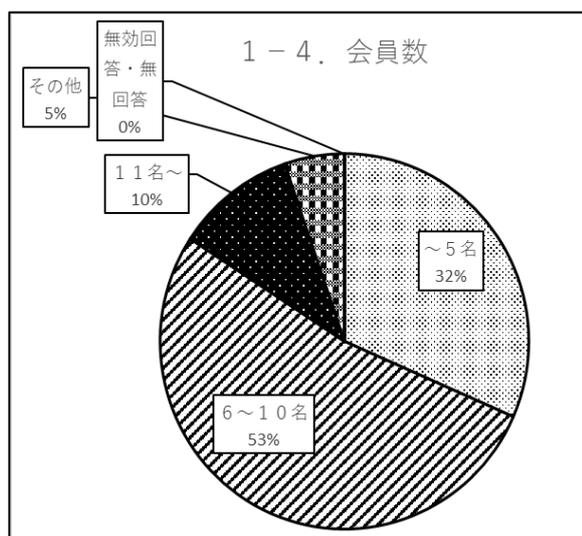
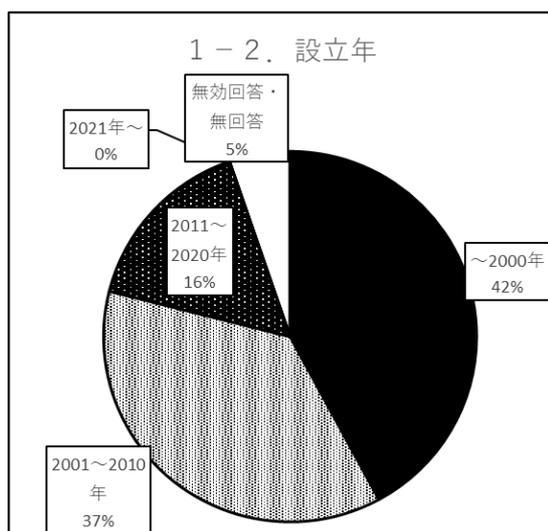
<アンケートから見る傾向や課題>

- ▶図書館以外の児童館や地域のお祭り、障害児施設等へ出張し、おはなし会を実施することで、他施設との連携が生まれたり、朝読書や父兄による読み聞かせのフォローや多言語での読み聞かせを行うなど、多岐にわたり活発に活動している。また、各団体において、自主的に読み聞かせ講座を受講するなど研鑽を重ね、多摩市の子どもたちの読書活動の推進に十分な協力体制を整えていただいております、引き続きの連携が必要不可欠と考えている。
- ▶団体によっては、メンバーの高齢化も課題であり、若い親世代とどのようにつながりを持ち、働きかけていくかについても検討していく必要がある。
- ▶図書館が併設されていない児童館を利用している等、物理的に図書館へ行くことが困難な子どもたちへのフォローが必要であろうという意見や各種イベントでおはなし会を行うことも必要ではあるが、常日頃実施している定例おはなし会の大切さを認識してほしいなど、部分的な支援ではなく、全体に行き届くために今後の読書活動をどのように推進していくか課題となっている。
- ▶図書館はおはなし会を児童サービスの大事な仕事として位置づけ、図書館としての基本的な活動の一環とすべきという意見もあり、図書館の児童サービスの在り方への検討も必要となってくると考えられる。
- ▶蔵書（複本）を増やしてほしいという意見や旧本館に比べ、中央館の特に0～6才の子ども達のためのスペースが狭くなったように感じていたり、多摩市として、子どもの読書活動推進の活動内容が、薄れてしまうことを危惧しているとの意見もある。
この点について、計画は一つになるが、今後も同様に行っていくことを丁寧に説明していく必要がある。

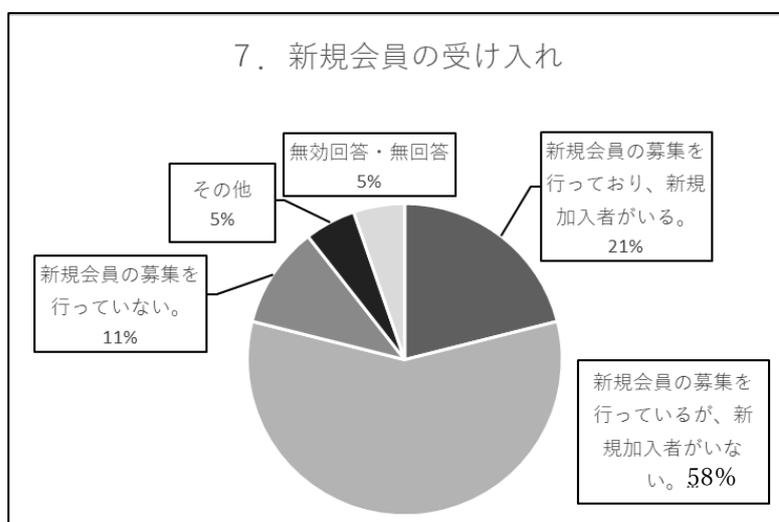
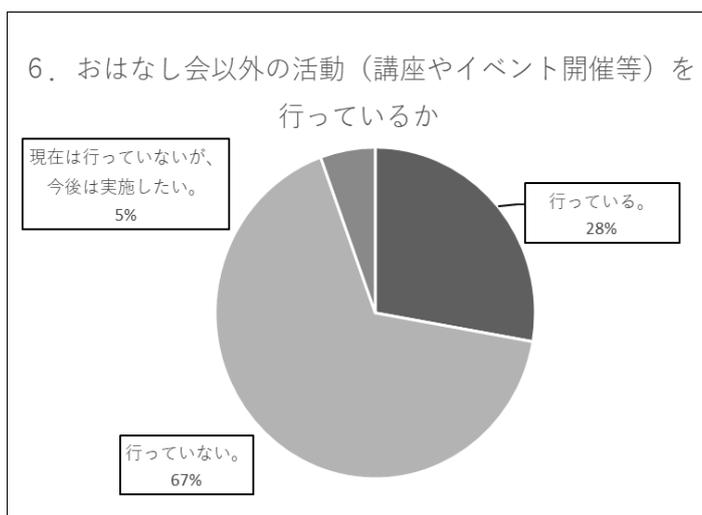
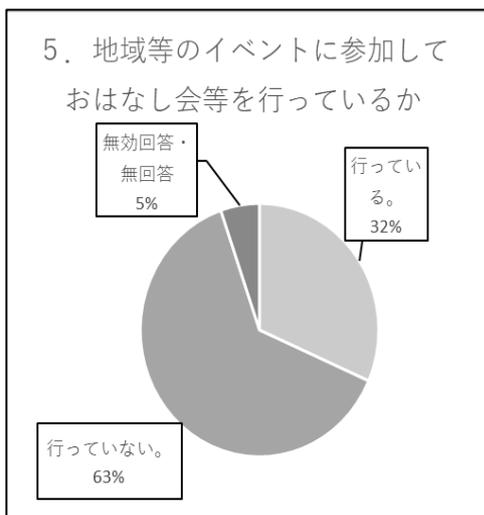
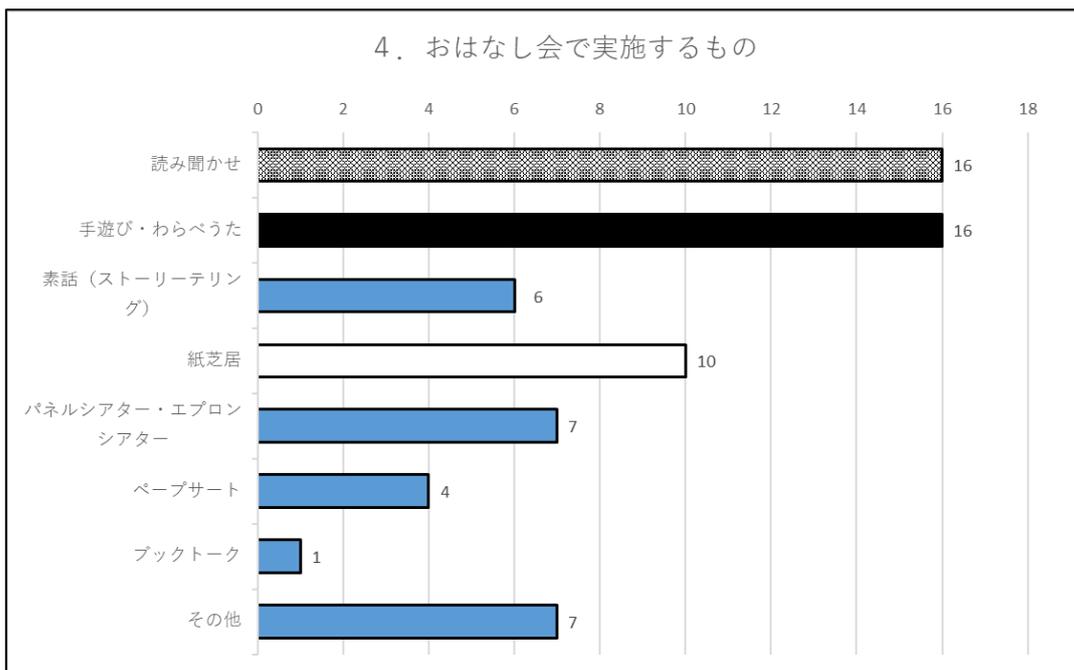
以下、アンケート結果まとめ

不記載の項目

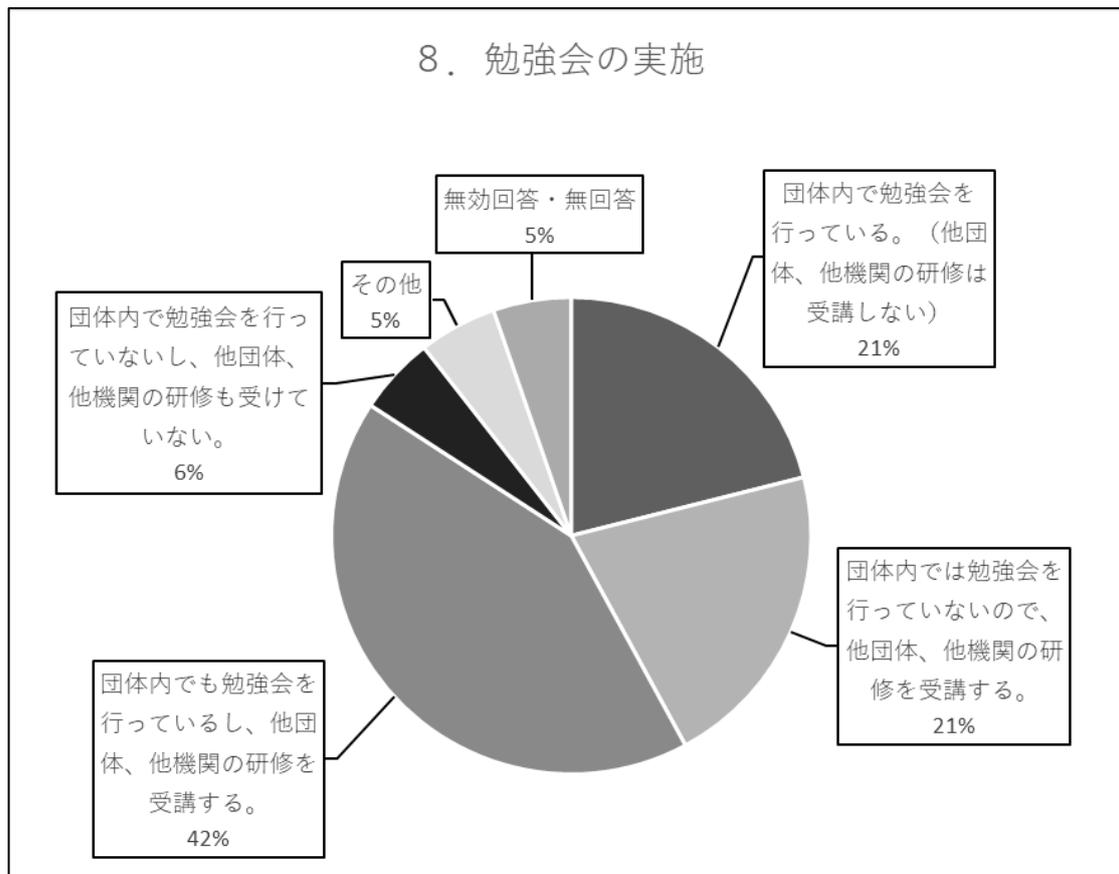
- ・設問1-1 団体名
- ・設問1-3 主な活動場所



3. おはなし会の実施時間	回答数
(2. にて多摩市立小学校または多摩市立中学校を選んだ団体のみ回答)	
朝の読書の時間	2
授業中(図書的时间等)	2
放課後	1
その他(中休み)	1



8. 勉強会の実施



9. 「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」の期間中で、団体において以前よりも充実した活動や事柄

▶おはなし会について

- ・図書館の企画の出張おはなし会に参加して普段行っていない児童館でおはなし会をした。
- ・多摩おはなしネットワークの企画で、図書館の50周年を祝うおはなし会に参加した。
- ・図書館開館50周年イベントに「図書館開館50周年を祝い おはなし50話を楽しむ会」に「多摩おはなしネットワーク所属団体」として参加した
- ・地域のお祭りで、おはなし会と工作を行った。
- ・図書館でのおはなし会（絵本の読み聞かせ、手あそび、折り紙）中心の活動でしたが、南鶴牧小学校の朝読書（父兄の読みきかせのフォロー）、生徒の見守りの為の放課後教室の参加をするようになりました。
- ・多言語の活動を目指して、最近ではヨーロッパ（ルーマニア、ドイツ）やアジア（韓国）の言語も今迄の英語やスペイン語に加えて試みている。世代の交流も意識したく、今回のスペシャルおはなし会のイベントでは、初となるが小6の英語による紙芝居も取り入れた。

➤他団体・施設との連携について

- ・図書館が近くにない子どもたちにも、おはなし会を継続して続けてこられたのは、児童館の協力もあり、とても良かったことと思う。図書館の出張おはなし会として、愛宕児童館で行えたことは、児童館とのつながりを再確認でき、今後につなげていけたらと強く思った。
- ・以前、ほんともフェスタでは、常日頃の定例のおはなし会も告知し、児童館でのおはなし会も載せていただいていたが、図書館が併設されていない児童館という認識があるにもかかわらず、そういうことから漏れていくのは、少し残念で悲しい。地理的に図書館へ行くことが困難な子どもたちのことも、忘れずにフォローしていきたい。
- ・読み聞かせ講座の受講。絵本の展覧会や絵本美術館などで研修し、絵本選びや読み方の向上につながっています。子どもの発達段階を考えた本選びの学習も進みました。
- ・文庫展
- ・私達の団体では、図書館だけでなく、こどもえん、学童保育、障害児施設等でも絵本の読み聞かせをしている。絵本の読み聞かせを通して、読書の楽しさを学んでくれたらと思う。

10. 「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画」策定における意見

➤多摩市立図書館の児童サービスのありかたについて

- ・図書館でのおはなし会はほとんど親子での参加であり、子どもはほぼ、幼児から低学年までである。
- ・身近にある図書館での児童サービスが充実していることはたいせつである。
- ・「きいてたのしむおはなし会」では、コロナ禍を経て、ICTの利用増加のためか、言語より、視覚情報が優位になっていると実感させられることがあった。
- ・おはなし会が一時的な客寄せイベントにならず、常日頃の定例のおはなし会が大切だということをしっかり認識してほしい。
- ・多摩市立図書館本館よりも、出来上ったばかりの中央館は、小さい子ども達(0～6才、7～12才)、特に0～6才の子ども達のためのスペースがとても狭くなりました。小さい子ども達への支援が後退していくことが心配です。何を大切にしていけるのか、見失わないように願っています。
- ・読書の基礎を作っていく時期を大切にしていだければと思います。(子ども読書支援係の名がなくなり、企画運営担当の名に変わったことに危惧を感じます)
- ・このアンケートでは「おはなし会」についての質問が多くを占めているが、図書館はおはなし会を児童サービスの大事な仕事として位置づけ、図書館としての基本的な活動の一環とすべきです。ボランティア団体の単なる活動の場所、発表の場所というような扱いは改めてほしい。
- ・読書活動振興計画にこれまで第三次までおこなってきた子どもの読書活動推進の活動内容が、希薄になったり、消えてしまうようなことになってはならない。

- ・多摩市子どもの読書活動推進計画は、図書館や学校図書館はもちろん児童館など子どもが集まる施設でのことも幅広く考えていくものだと思います。「読書振興計画」と一本化されることで、縮まっていかないようにお願いします。

➤子どもと読書のかかわりについて

- ・絵本は子どもにとって、おもちゃだと思います。もっと敷居を低くして、おもちゃがあっても絵本を選ぶくらい、気楽なものになって欲しいと思っています。
- ・絵本の世界は繋がりがあっています。絵本と本が分断されたり、科学と科学以外の世界が分断しているように見えない図書館であってほしいです。
- ・子どもが大きくなってからでは、ゲームなど興味を引く誘惑がたくさんあり、本に親しむ環境をつくるのは難しくなるので、小さいうちから遊びの中で本に興味を覚えさせるように仕向ける必要があると思います。そのためには保育園や幼稚園、子どもの集まるあそび場などで、本やお話しを広める必要があると思います。
- ・永山図書館、中央図書館等で読み聞かせをしているが、子供が楽しく聞いているのに、親の都合により途中で帰らなければならない子供がいる。長い時間ではないので、せっかく図書館に来ているのだから、もう少し子供中心に親がなってくれれば良いと思うが、どうしたら良いか？

➤多摩市立図書館の蔵書について

- ・行事の絵本で（季節の本も含め）人気のあるものは2冊以上、蔵書として考えていただきたい。
- ・比較的新しい絵本の複本が少なく思います。人気の絵本と、季節の行事に関わる絵本の複本を多くしてください。
- ・大型絵本も複本があると助かります。

➤ブックリストの作成について

- ・若いパパ・ママの参考になるように年に1度位の人気絵本の紹介リストなどの作成を考えていただきたい。
- ・おはなし会用の大型絵本のリストを作って欲しい。

➤団体への支援について

- ・図書館で読むだけでなく、楽しく本に触れ合える施設(児童館等)の充実
- ・活動している団体への補助(集まりや展示会等での施設利用費の無償化や補助)
- ・図書館との連携の強化
- ・保育園など生活の場でも言語や良書を提供できるように、図書館からはユニバーサルデザインとともに、人的援助が必要とされるのではないだろうか。

- ・団体の発足から13年経ち、メンバーの高齢化も進んでいます。子どもと言っても孫世代との交流になり、読書離れ、図書館離れが急速に進んでいるのを感じます。子ども達の親世代とコミュニケーションをとる機会を作っていただいたり、協力して子供達の読書を促す活動ができたと思います。
- ・文庫展への参加